



平成 21 年 12 月 3 日

各 位

会 社 名 昭和電線ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 富井 俊夫
(コード番号 5805 東証第 1 部)
問 合 せ 先 経営企画部 IR・広報グループ 長
菅井 幹夫
(TEL. 03-5532-1911)

(訂正)「平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算短信」の一部訂正について

平成 21 年 11 月 11 日に発表いたしました「平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算短信」の記載につきまして、一部に誤りがありましたので訂正いたします。

訂正を要する箇所および訂正した箇所には_____を付してあります。

記

【4 頁 「定性的情報・財務諸表等」 「4. その他」 「(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」】

〈訂正前〉

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
完成工事高および完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第 15 号 平成 19 年 12 月 27 日) および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 18 号 平成 19 年 12 月 27 日)を第 1 四半期連結会計期間より適用し、第 1 四半期連結会計期間の期首に存在する工事契約を含むすべての工事契約において当第 2 四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、第 2 四半期連結累計期間における売上高は 1,954 百万円増加し、営業損失および経常損失はそれぞれ 296 百万円減少し、税金等調整前四半期純損失は 358 百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

〈訂正後〉

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
完成工事高および完成工事原価の計上基準の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第 15 号 平成 19 年 12 月 27 日) および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第 18 号 平成 19 年 12 月 27 日)を第 1 四半期連結会計期間より適用し、第 1 四半期連結会計期間の期首に存在する工事契約を含むすべての工事契約において当第 2 四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これにより、第 2 四半期連結累計期間における売上高は 487 百万円増加し、営業損失および経常損失はそれぞれ 235 百万円減少し、税金等調整前四半期純損失は 296 百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

【11頁～12頁 「定性的情報・財務諸表等」 「5. 四半期連結財務諸表」 「(5) セグメント情報」】
 (訂正前)

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	6,168	5,516	40,304	51,989	—	51,989
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	535	75	627	1,238	△1,238	—
計	6,704	5,591	40,932	53,227	△1,238	51,989
営業利益	20	22	210	252	△75	176

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	5,077	3,691	25,155	33,923	—	33,923
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	217	151	300	670	△670	—
計	5,295	3,843	25,455	34,594	△670	33,923
営業利益または損失(△)	△183	△73	706	449	27	476

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	12,106	10,483	82,099	104,689	—	104,689
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	960	122	1,277	2,359	△2,359	—
計	13,066	10,605	83,376	107,049	△2,359	104,689
営業利益または損失(△)	△124	△61	1,111	925	△57	868

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	9,381	6,870	48,204	64,456	—	64,456
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	510	189	544	1,244	△1,244	—
計	9,891	7,060	48,748	65,700	△1,244	64,456
営業利益または損失(△)	△282	△389	314	△357	32	△324

- (注) 1. 事業区分は製品の使用目的および販売市場等の類似性に基づき、コミュニケーションシステム事業、デバイス事業、エネルギーシステム事業他としております。
2. 各事業区分に属する主要な製品
 コミュニケーションシステム事業……光・通信ケーブル、通信工事、ネットワークソリューション
 デバイス事業……精密デバイス製品、振動制御製品、ワイヤハーネス
 ファイバフォトニクス製品
 エネルギーシステム事業他……裸線、巻線、電力ケーブル、被覆線、アルミ線、電力工事・
 付属品、超電導線、その他

3. 会計処理の方法の変更

【定性的情報・財務諸表等】 4. その他」に記載しましたとおり、第1四半期連結会計期間より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）および「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の売上高がエネルギーシステム事業他で1,954百万円増加し、営業利益はエネルギーシステム事業他で296百万円増加しております。

〈訂正後〉

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	6,168	5,516	40,304	51,989	—	51,989
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	535	75	627	1,238	△1,238	—
計	6,704	5,591	40,932	53,227	△1,238	51,989
営業利益	20	22	210	252	△75	176

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	5,077	3,691	25,155	33,923	—	33,923
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	217	151	300	670	△670	—
計	5,295	3,843	25,455	34,594	△670	33,923
営業利益または損失(△)	△183	△73	706	449	27	476

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	12,106	10,483	82,099	104,689	—	104,689
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	960	122	1,277	2,359	△2,359	—
計	13,066	10,605	83,376	107,049	△2,359	104,689
営業利益または損失(△)	△124	△61	1,111	925	△57	868

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日至平成21年9月30日）

	コミュニケーションシステム事業 (百万円)	デバイス事業 (百万円)	エネルギーシステム事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	9,381	6,870	48,204	64,456	—	64,456
(2)セグメント間の内部売上高または振替高	510	189	544	1,244	△1,244	—
計	9,891	7,060	48,748	65,700	△1,244	64,456
営業利益または損失(△)	△282	△389	314	△357	32	△324

(注) 1. 事業区分は製品の使用目的および販売市場等の類似性に基づき、コミュニケーションシステム事業、デバイス事業、エネルギーシステム事業他としております。

2. 各事業区分に属する主要な製品

コミュニケーションシステム事業……光・通信ケーブル、通信工事、ネットワークソリューション
 デバイス事業……精密デバイス製品、振動制御製品、ワイヤハーネス
 ファイバフォトニクス製品

エネルギーシステム事業他……裸線、巻線、電力ケーブル、被覆線、アルミ線、電力工事・
 付属品、超電導線、その他

3. 会計処理の方法の変更

【定性的情報・財務諸表等】 4. その他」に記載しましたとおり、第1四半期連結会計期間より、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）および「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の売上高がエネルギーシステム事業他以487百万円増加し、営業利益はエネルギーシステム事業他以235百万円増加しております。

以上